

科目名	生活の援助技術Ⅱ		時期	時間	単位
担当教員	看護師として5年以上の実務経験を有する専任教員		1年次	前期	30時間 1単位
科目設定理由	看護は人間の健康に焦点をあて、あらゆる成長・発達段階にある個人、家族、集団、地域・社会の中で生活している人を対象とし、その人がもつ自らの力を最大限に発揮し、最期までその人らしく生きることを支援する。そのため看護師には、日常生活行動援助技術の重要性を理解したうえで、科学的根拠に基づき、対象の安全・安楽を考慮した看護を実践することが求められる。そこで、健康障害のある患者の看護に応用できる援助技術を具体的な事例を用いたシミュレーション演習を通して主体的に学び、実践する能力を修得するため当該科目を設定した。				
学習目標	1 対象の生活を整えるための食生活の援助技術を修得する 2 対象の生活を整えるための排泄の援助技術を修得する				
修得する看護技術項目	No. 3 食事介助(嚥下障害のある患者を除く) No. 7 排泄援助(床上、ポータブル、オムツ等) No. 10 浣腸 No. 23 陰部の保清 No. 26 口腔ケア				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1～6	食事と栄養	1 人間にとっての「食べる」ことの意義 2 食習慣の成り立ちと食の安全 (1) 食事と日常生活 (2) 食の安全(社会の動向) 3 食事と栄養のアセスメント 4 食欲と摂食行動 (1) 食欲の調節: 食欲を左右する因子 (2) 消化・吸収及び排泄の機構 5 医療施設で提供される食事の種類と形態 6 食事の援助方法 (1) 健康な食習慣と食事管理 (2) 食欲増進のための援助 (3) 食事介助(口腔ケア、誤嚥予防含む)			講義・演習 No. 3 No. 26
7～14	排泄	1 排泄の意義 2 排泄に影響する要因 3 排泄に関するアセスメント 4 排泄の援助方法 (1) 健康的で自然な排便習慣をつけるための援助 (2) トイレ・ポータブルトイレでの排泄の援助 (3) 便器・尿器を使用する患者の援助 (4) おむつを使用する患者への援助(陰部洗浄含む) (5) 排便困難な患者への援助 ・グリセリン浣腸			講義・演習 No. 7 No. 10 No. 23
15	試験	まとめ			
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ		有田 清子 他	医学書院	
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術		任 和子 他	医学書院	
参考図書・資料等					
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、課題レポートなどから総合的に評価する				